

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立神島高等学校 校長名：亀井 真竜

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・深い学びの実現に努め、生徒一人一人の資質能力・可能性を最大限に伸ばし、主体的に人生を歩む力を育てる。
- ・郷土愛・地域貢献の精神を培い、保護者・地域の期待に応える学校。

学校評価の公表方法

学校運営協議会および本校ホームページ掲載等で公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月26日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	生徒の資質、能力、可能性を最大限に伸ばす質の高い教科指導を目指す。	B	研究授業や公開授業の実施。	研究授業の実施や授業の相互見学の回数。	B	ICT を活用した授業についての研究が進んだ。	組織的・継続的に授業改善に取り組む体制づくりを継続する。 検定については、次年度も授業・補習等でサポートを充実させ、進学や就職に活かす。今後は共通テスト利用の受験生を増やすことにこだわらず、総合選抜型など本校教育活動の利点を活かす入試方法の活用を図る。
			簿記検定、英語検定、漢字検定などの資格取得を促す。	検定合格者や資格取得者の数。	B	検定合格・資格取得については、授業・補習等でサポートを充実した。	
			進路 LHR・ガイダンス、補習、模擬面接等を通じ進路意識の向上を図る等キャリア教育を充実させる。	共通テストに取り組む生徒や志望校合格者の増加、希望する企業先への内定者の増加。	B	共通テストに取り組む生徒を増やすことはできなかったが、志望校の合格や希望する企業への内定者は多かった。	
2	地域と連携した取組を学校全体に広げ、生徒の主体性の向上につなげる。	B	地域学習を進めて地域の理解を高め、地域に貢献できる人材を育てる。	行事等への参加者数や学校の取組みと連携してくれる地域、団体、個人の増加。	A	地域の起業家の方々が授業や神島塾等に、講師として来て頂き生徒に指導を行った。	「神島屋」・「神島塾」などの取組では、今後も地域と連携した取組を推進するが、特定の教員の負担を解消するため、校内の協働体制も充実させていく。 津波から避難するため、地域住民の方々と避難時の協力体制を築くため、継続して避難訓練に連携して取り組む計画をたてる。
			協働体制を高め、特定の教員への負担の集中を解消する。	企画・運営に協力する教員の増加。	B	職場内で教員間の協働体制の意識は高くなってきている。	
			避難訓練の実施の詳細を地域と共有しながら計画を立て、参加体制を整える。	学校と地域が情報を共有し連携した計画を作ることができたか。	B	避難訓練の実施日時を地域と合わせて行うことができた。	
3	生徒理解を深め、対話的な生徒指導を行うとともに、特別支援教育の視点から教育活動全体を見直す。	B	校門指導、身だしなみアセンブリーの実施。	違反生徒や指導件数。	B	毎日の校門指導や毎月のアセンブリーを通して、身だしなみ指導を行った。	職員全体で情報を共有し指導する体制を引き続き維持する。いじめ未然防止対策を十分とると共に、生徒の学校生活全般を丁寧に観察し、迅速に対応する。 支援委員会の効果的な運用で、学校全体で指導する体制を堅持する。SC やSSW との連携は必須である。
			生活アンケートや QU アンケートによる実態把握。	いじめ事案の未然防止や早期発見・対応・解決ができたか。	A	アンケートによって人間関係の把握に努めることで、迅速で的確な対応ができた。	
			特別支援教育コーディネーターや教育相談・SC・SSW の各職員との連携。	特別支援の視点を常に持つことができたか。	B	支援委員会を毎月行い、教員間で情報共有し、SC や SSW の助言を頂きながら指導を行った。	
4	学校行事等への積極的な参加と促し、主体的な参画を促し、学校の活性化につなげる。	B	学校行事、生徒会活動への積極的な参加を促し、自主的運営を指導する。	生徒がどれだけ積極的に参加、運営できたか	A	学校行事において、生徒が中心となり企画・運営をすることができた。	すべての教育活動を通し生徒の自主性を尊重し、帰属意識を高める指導をする。 地域、団体、個人で連携してくれる人の協力を継続して依頼する。
			全国的なコンテストへの参加。	連携してくれる地域、団体、個人の増加。	B	地域内外の様々な方々の協力により、うまいもん甲子園やビジネスプランコンテスト等に出場することができた。	

学校関係者評価（2月24日実施）

・年度当初に学校運営の基本方針を承認し、学校と地域が課題や目標を共有し、目標の実現に向けての協議を重ねることができた。学校はとても頑張ってくれており、生徒達もそれに応えて頑張っているように思う。一方で、保護者や地域住民はその頑張りを見守っていただいている状況だと思う。
コロナ禍が終わった今、課題解決のためにどのようにしたら保護者と地域を巻き込んでいけるかを検討するのも必要であると思う。

・年々地域だけに限らず課題や参加を求められる事が多くなっているのに、きちんと成果として「カタチ」にされているのにはいつも感動する。
校訓の「理想」・「知恵」・「団結」そのものである。継続していくのは大変だと思うがチャレンジを続けて神島高校でしか味わえない高校生活を生徒に送っていただきたいと願っている。

・授業アンケートの結果から、授業が生徒にとって充実した内容になっていることが良く分かった。令和3年度から評価が向上しているのは、先生方が授業改善に日々努力されている結果だと思う。やはり学校は「授業」が一番大切である。日々の「良い授業」の繰り返し、学校生活の充実度を上げると思う。先生方が、教材研究、授業準備に時間がとれる学校運営を目指していきたいものだと考える。